

2012年度前期授業評価アンケート集計結果に対するコメント

—経済学研究科—

経済学研究科長 木村 周市朗

当期の大学院全体の集計結果からみて、昨年度と同様に、大学院の授業はおおむね高い評価が得られたと思います。これは、どの授業も徹底した少人数教育がおこなわれていることによって、密度の濃い双方向性の授業が相当程度実現していることのあらわれだろうと判断します。

その中で、相対的に評価が低めに出た項目は、昨年度と同様で、4)「休講または教員の遅刻が多かった」、6)「この授業のレベルはあなたにとって適切であった」、14)「予習または復習をよくした」、の3項目です。

これらの項目の平均評点について昨年度からの推移を、昨年度の前期・後期・今年度の前期で並べて点検してみると、4)は4.58 → 4.53 → 4.56 であまり変化がなく、教員として反省すべき点ですが、6)は4.43 → 4.45 → 4.49、14)は4.13 → 4.22 → 4.31であり、ともに若干の改善傾向が認められます。

大学院では、学生諸君のそれぞれの研究分野がはっきりしているだけに、近接領域の授業の履修を通じて「もう一つの見方」を学ぶことの意義は、大変重いものがあります。今後も、大学院担当教員全員が日々努力して、双方向性の実を高め、履修者の学修意欲に十分応えてそれをさらに伸ばすことができるような授業を展開することが期待されます。